

# 今支館・分館では

## 『刃物研ぎ講習会』

— 大杭分館 —



明がありました。たとえば包丁は大きく分けて、和包丁（片刃）・洋包丁（両刃）に分けられるそうです。刃の構成・性質・研ぎ方・砥石の種類等を教えていただき、実際にそれぞれの家庭で切れなくなった包丁・ナイフ・鎌・ナタなど研いでみました。やってみると思ったより難しく、参加者は真剣な顔で夢中になって研いでいました。わからない場合は講師に聞きながら進めていきました。

研ぎ方の一部を紹介します。洋包丁はまず片側を研いでい

大杭区では、平成26年度より、公民館活動の一つとして刃物研ぎ講習会を開催しています。今年も6月4日(日)大杭研修センターにて行われ、参加者は25名でした。年々参加者が増えている大変好評の講習会です。

区の現役の大工さんに御協力をお願いし、道具等を用意していただきました。まず研ぐ前に、講師による簡単な説



きます。反対側にザラツとした感じ（刃返り）が出てきたら裏を研ぎます。表裏5対5の割合で研ぎます。研いだ刃物の最後の仕上げは、講師にお願いしました。参加者は、見違えるほど切れるようになった刃物に大変満足しているという感想が多く、役員の間でも好評でした。

参加者の年齢は高齢者が多いのですが若奥さん達も多く、世代を超えた交流の場にもなっています。

好評の講習会、今後も皆でもっと盛り上がるように工夫しながら続けていきたいと考えています。

大杭分館主事 山浦 浩郷

## 『天竜舟下りと川本喜八郎美術館の旅』

— 滝原分館 —

滝原分館では、婦人部の研修旅行として区民を対象とした小旅行を企画・実施しています。今年度は、『天竜舟下りと川本喜八郎美術館の旅』として、飯田方面への日帰り旅行を行いました。

最初の見学先は、川本喜八



天竜舟下りの乗船風景

郎美術館です。川本喜八郎はNHK人形劇『三国志』などで多くのファンを魅了した人形美術家で、飯田はもともと江戸時代に上方の人形遣いを迎え入れて教えを請うた古の人々がいた縁があり『三国志』などの人形を川本喜八郎が寄贈する形で2007年に開館した人形美術館です。

美術館には『三国志』はじめ『平家物語』で実際に使用された人形が一堂に展示されており、今回の研修旅行に参加された皆さんも食い入るように人形の鑑賞や学芸員さんの説明をお聞きになられていました。

私はNHK『三国志』が放映されていた時、小学生でしたが三国志好きの父の影響で『三国志』を毎週見ている

たので、今回の旅行で実際に撮影に使用されていた人形を間近で鑑賞することができ、当時のことを思い出しました。

続いての訪問先は、天竜舟下りです。諏訪湖を源に静岡県の遠州灘に注ぐ天竜川の飯田市弁天港から時又港までを船に乗っての川下りです。流れの速い場所では飛び散る水しぶきをビニールで防ぎながら、時には穏やかな流れで川岸の林に作られた鳶の巣を見ながらの川下りでした。乗船した船の船頭さんによると、当日は川の水量が少なく、この時期の舟下りとしては安定しゆつたりとした舟下りであったとのことでした。

舟下りの後は、遅めの昼食を参加者一同でとり、土産店での買い物を経て小諸への帰路につきました。帰路の車中ではカラオケ大会なども実施しました。

日帰り旅行ということで、朝から夕方までの小旅行でしたが、参加者の皆さんが有意義に過ごせた一日であったと感じます。

滝原分館運営委員

白鳥 直樹